勝瀬の子掛式るでは。玄事以付き合みちれ式挙向以子典

の世話とは嫌いなる。

「さ好とくおら」 ランつ理

なかった。

拍子木の音が家中まで響いてくる。最近、不審火が絶え

「怖い、怖い」

「明日は我が身」

縁側を渡るしな俺は呟きを捉える。

「大事ない。水神様がいらっしゃる」

負棚番十 行势東百

窓を白いずのな風る。見る間い獺の遠へ流され、下井の窓を白いずのな風る。見る間い獺の遠へ流され、下井の

3 1 日本藤という小は時ないる。

さらかない。

見れば芝生にシーツや点がら

悲劇が土がです。

震えを覚えていた。

虽依同える。とん気替な国勤気。動幻欠申まごでご合而

述茶を手い戻ってあると午地を布き消えていた。

る。一般を表していてというでいる。

6

がっている。

見回すが、誰の姿もなかった。井戸の傍に石が幾つか転

かたなく刻い城ってあったホールを下掛と投わ合った。

線香の製化票パ、下拠の姿材敷らい汁。

こそこそ岩という化け物がいる。

「まだれよっとでかしかけ

負棚番十 行办鬼百

その果材效致い立っている。当目依題帯以翳はれている。

● 目入道という小り牌ないる。

御お果の薬型を周囲へ唇はが。気が、その割い果お消み

大かる。

引かれ、足は浮き上がった。柄を離した俺は地面に尻餅を

足元に傘が転がっている。渡りに船と開いた途端、

腕が

傘は空へと遠ざかっていった。

で話り

目を致らそうと答める冷本が微値はいしなかった。

10

11 | 幽霊傘という化け物がいる。

出した雨は弱まる気配もない。

シャッターの下りた店先で俺は煙草を喫んでいた。降り

百鬼夜行 十番勝負

出る

214

6.掛巾

縁側31気にてあると財母の姿は見えない。

断じた。

「あの婆ちん。今ず行神げも」

鬼夜行絵巻物である。それをひもといてその怪異に戦慄す

宇宙は永久に怪異に満ちている。あらゆる科学の書物は百

の作成図を使用しています。 デザイン、楠樹暖様(@kusunokidan)

是事

十番勝負

4-40

負裫番十 行办患百

本社() (muirirod()) 耕 muirirod ※

tumblr: http://donut-st.tumblr.com/

twitter: @donut_no_ana 2015年2月10日改 発行日 2014年8月24日発行

化け物がないと思うのはかえってほんとうの迷信である

る気持ちがなくなれば、もう科学は死んでしまうのである。

寺田寅彦著「化け物の進化」より

国は財母な守んでいま。類の散をはい、動お動脈へ向か う。学術、母おかの語をあなまで間介を、かしいと言下に 「こめとといるら

。 やいといいととはなる。

12

5 2 煙々羅という化け物がいる。

俺は紫煙で輪を拵え、税に入っていた。

약

留守なの依主人の返事わない。 帰患 は別が という

待さくささいと斑が貼られていた。

郊水が剛から古を垂らし目形を描いか野灯がった。

「

と

に

は

に

と

に

に

と

に

と

に

と

に

に

と

に

。やり、一つの一つでは、「なっと」

対阜県代多受け取りいかももの代でスロへ手をはけず。

思言はというといる。

い出していた。

煙の重なりに柔らかい影が浮かび上がる。笑っている女

訃報を伝える友人の言葉は遠く、俺は彼女のえくぼを思 記憶を探る俺を他所に黒電話が鳴り出す 「なあ知ってたか?」

百鬼夜行 十番勝負

書のより返り、音な匠の多憲はかる。鞠制コ水な畦し書 き人が背中の琵琶を不らし始めず。

盲い、対多突い式巻人である。

蚤の向こでゆる小ちな湯や近付いていす。 「最近つ、最近つ。84年の毎年一」

の無極限というとは極いる。

か、動払空浸を永めて知難いす。

₹

いまだ人という化け物に至れず

現世をさまよう



家中に札を貼る。 たちまち眠気が差し、 籠の中で小石を揺するような繰り返しが浴室を満たす。 湯船に浸かるといつもその音がした。 幾度か溺れかけた。 心配した母は、

いつしか怪異は消え失せたが、灯台を仰ぐ俺の耳はその

百鬼夜行 十番勝負



(c) 2014 - 2015 F-+ W

http://www.mopstudio.jp/

使用画像: ヒューマンピクトグラム 2.0 http://pictogram2.com/

1使用フォント : モップスタジオ